

ワクチン接種

済んでいますか？



カメラクリニック  
【小児科長】  
伊 忠秀先生

春先に東京から始まった麻疹の流行は、みるみるうちに全国へ拡大しました。ワクチンの接種希望者が急増したため生産量が少ない麻疹ワクチンはすぐに底を突き、十分な量を生産しているのはMRワクチン（麻疹・風疹ワクチン）までも入手不可能になってしまいました。生産ラインの問題で他のワクチンにも影響がおよび、DTPワクチン（三種混合ワクチン）やDTワクチン（二種混合ワクチン）も一時期品薄になり、ワクチンの手配に頭を痛めました。

日本では公費で接種できるBCG、三種混合、MR、日本脳炎のワクチン以外に、任意で接種する水痘、おたふくかぜ、インフルエンザ、肺炎球菌に対するワクチンなどもあります。水痘ワクチン、おたふくかぜワクチンは費用が高いことと、「一度はかかる病気」という意識が強いため接種を希望される方は少ないのが現実です。しかし水痘後の带状疱疹やおたふくかぜによる難聴などつらい後遺症や合併症はほとんど知られておらず、子どもにかかる負担やリスクを考えるとワクチンで予防するのが一番です。「ワクチンを打つよりも罹ったほうが良い病気」などあるはずがありません。

予防医学の進歩とともに必要とされるワクチンも変わります。春からは中学1年生と、高校3年生へのMRワクチン接種が始まります。重篤な髄膜炎などを予防できるHIBワクチン（B型肝炎ウイルスワクチン）もまもなく接種できるようになります。欧米で普及して効果をあげている子ども向けの肺炎球菌ワクチンやロタウイルスワクチンの導入もそう遠くないと考えられています。もう一度母子手帳で接種もれがないか、そのほかに接種するものがないか見直してみて病気になる前のワクチン接種をお勧めします。

国際交流コーナー

シリーズ

多文化共生

12

今回は水計町在住の久田信一郎さんをご紹介します。おもにエチオピアで国際技術協力事業に長年従事してきた久田さんの、現地への想いを教えてくださいました。

「裸足のマラソン王者」

アベベ・ビキラがローマオリンピックで1960年に優勝した話は、伝説的な出来事としてエチオピアで語り継がれている。東京オリンピックでもアベベは優勝し三冠を果した。ローマでは、はたして走ったが、東京ではシューズを履いて優勝した。

当時私は7歳だった。その20年後に青年海外協力隊員としてアデイス・アベバにいた。エチオピアの友人に「アベベが東京オリンピックで優勝した頃私たちも運動会ではだして走っていた」と話しても半信半疑だった。その後「おしん」がテレビで放映されてエチオピア人も泣いていた。お陰で私たちがはたして走っていたことを信じてもらい、日本人の戦後復興と経済発展が手本とされ、益々尊敬されて得をした気分になった。縁あってエチオピアで海外技術協力の仕事にたずさわり22年、彼らと共に汗を流してきた。

今、私の大好きなマラソン選手の1人にエチオピア人のハイレ・ガブレ・セラシエがいる。30代後半から1万メートルの王者からマラソンに転じ世界記録を更新し続けている国民的英雄だ。ハイレも、子どもの時、農村で育ちはだして走っていたと言われている。彼の等身大のポスターがアデイス・アベバ市役所に通ずる10階建てビルの側面二面に張られていて「イチヤラル」と書いてある。「や

ればできる」と言う意味である。

飢饉の時も、内戦の時も、そして平和な時も、世界の、中・長距離競技でエチオピア人は国の誇りをかけて活躍してきた。はたしのマラソン選手がはじめてエチオピアに金メダルを持ち帰ってから48年になる。北京オリンピックで、再び優勝「できる」ように応援したい。



アベベ・ビキラの墓



中央:久田氏(エチオピアにて)

問い合わせ

大村国際交流協会(地域げんき課内・内線184)  
☎34111 FAX 52902 ✉oifaith@hotmail.com